

尾瀬沼の水生植物

星 一 彰

(福島県立福島東高校)

1980年7月と8月福島県と群馬県にまたがる尾瀬沼の水生植物を調査することができた。確認された水生植物15種の水平分布は図1の通りである。

尾瀬沼の水は、昭和24年から東京電力が水力発電のために、沼の水が流れ込んでいた沼尻川をせきとめ、群馬県側に導水トンネルをつくって流すようにしたことで、水の流れが停滞し、水位変動は約3mである。

この事実が水生植物にも大きな影響を与えている。

センニンモは沈水性の多年草で、普通は1~2m位の深さまでみられるが、尾瀬沼では深さ6mの場所に生育しているものがあつた。もし、水面変化がない尾瀬沼なら、

もつと広範囲で分布することが可能であろう。

草長が普通50~80cmのエゾノヒルムシロが、水面変化で3~4mになっているものがあつた。

また水面に出ているはずのヒツジグサの花が水中に入ってしまったのも認められた。

全般的に水位上昇が、水生植物に影響していることが認められた。

参考文献

大滝末男・石戸 忠(1980) 日本水生植物

図監, 北隆館

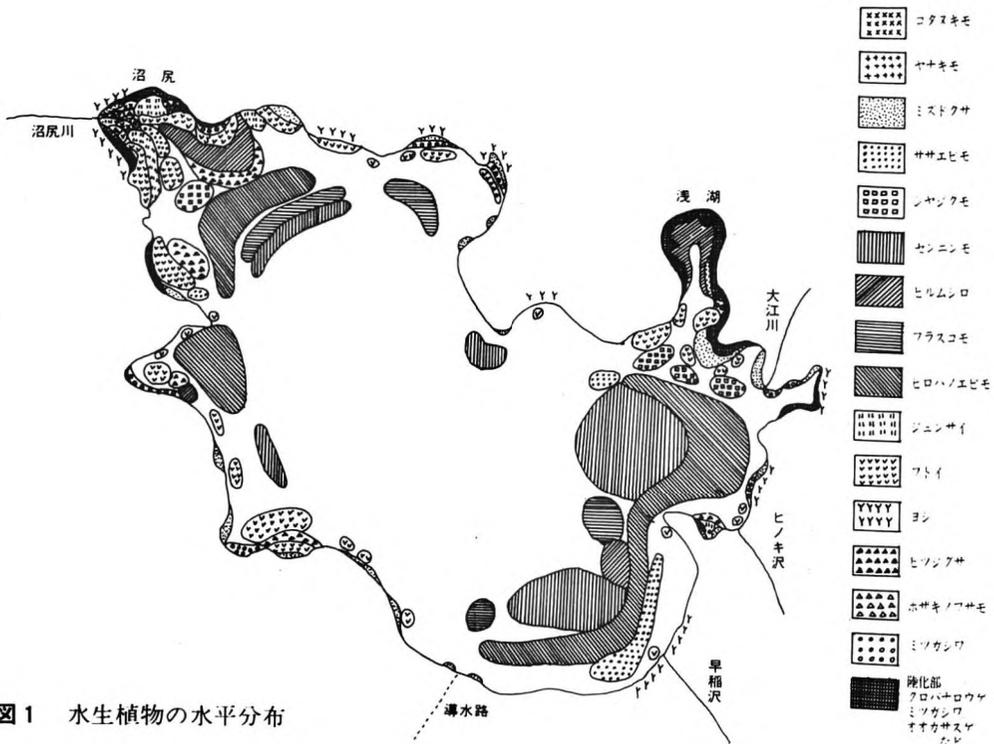


図1 水生植物の水平分布